

○栃木市の文化

和歌によまれた栃木市

室の八島・しめぢが原・伊吹山を詠んだ歌はおおく、ここにあげたのはその一部です。
(「都賀町史・歴史編」より)

しめぢが原(標茅原) ・伊吹山

平安時代以来の名所にしめぢが原があります。おそらく、合戦場西部から川原田一帯、木野地の伊吹山の東方にいたる地帯をしめぢが原といったと思われます。いたるところに清水が湧き出ており、北方には高原山(鶏頂山)、北々北には日光連山をのぞみ、東南に筑波山をひかえた風光の美しいところであったそうです。

《しめぢが原》

○下野やしめぢが原のさしも草 おのが思に身をや焼くらむ (詠み人知らず)

○なほたのめしめぢが原のさしも草 わが世の中にあらむかぎりは (詠み人知らず)

○下野やしめぢが原の草がくれ さしもはなしにもゆる思ひそ (藤原光俊)

○たのめこししめぢが原の下わらび したにもえてもとしへぬるかな (藤原俊成)

《伊吹山》

○けふもまたかくやいぶきのさしも草 さらばわれのみもえやわたらん (和泉式部)

○おもひだにかからむ山のさせも草 たれかいぶきの里はつけしぞ (清少納言)

○かくとだにえやはいぶきのさしも草 さしも知らじなもゆる思ひを (藤原実方)